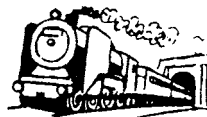


各地の

たより



この木変な木？ 初めて観る樹木に感嘆！

〈ふれあいセンター〉

一月十六日、高知県大月町立弘見小学校五年生二十四名が、足摺亜熱帯自然植物園（土佐清水市）で、総合学習の一環として森林教室を行いました。

これは地域の自然を学習し、自然環境にも関心を深めることを目的に実施したものです。

園内では、整備された遊歩道を歩きながら植物を観察したり、当センターの職員が樹木等の特徴などを解りやすく説明し



メモを取り熱心に聴き入る生徒

ました。

シヨウベンノキ、バクチノキなど普段身近で見られない樹木や、ゴクラクチョウカなど初めて観る植物に、「へー、おかしな名前、変わった植物」とか、アコウは、別名「絞殺木」と言われ、他の樹木を絞め殺し成長することを説明すると、一同に「恐ろしい、怖い木だー」などビックリした様子でした。

先生からは「身近なところにこのような植物園があることは知りませんでした。珍しい植物を観察できて子供共々感動しました。普段見られない亜熱帯植物の観察は有意義で思い出深いものとなりました」との感想が寄せられました。

また、今回は児童からも活発に興味ある質問が多数出るなど、充実した内容の森林教室となりました。

今後もこの植物園を活用した森林教室の開催に努めていきたいと考えています。

森の写真立て作り

〈徳島署〉

一月二十一日、徳島市立洗野の保育所において園児二十九名と保護者が木の枝と木の実を使



説明を聴く園児等

ってオリジナル写真立て作り挑戦しました。

最初に、園児には「モリゾーとキッコロ」のDVDを上映、保護者には別室で国有林の紹介と工作の注意点を説明して作業に取りかかりました。

まず、マスコットとなる動物のクマ・パンダ・イヌを製作、写真立ての土台・木の枝や木の葉のミニチュア作りと親子でアイデアを出しあい、笑顔いっぱい作品作り終えました。

今回の参加者全員が森林管理署を知らなかったのは正直「ショック」でしたが、逆に地道な活動の必要性を痛感しました。

親子行事で 木工クラフト作り

〈高知中部署〉

一月二十五日、香美市立山田小学校四年生八十名を対象に、日曜参観の親子行事で木工クラフト作りを行いました。

見本のクマの置物を見て、子どもたちは「かわいい」「こんなのできるが」と興味津々の様子。さっそく、サクラやミズメの枝を手にして、作品作り挑戦しました。

最初は、ぎこちない手つきでノコギリやナイフを手にしていた子どもたちも、時間がたつにつれ、手際よく作業を進めていきました。一時間という短い時間でしたが、少しずつ表情の



木工クラフト作りの様子



仕上がった作品を手に記念撮影

違ったクマを一人で二つ、三つと作る子どももいました。また、子どもよりもその保護者の方が夢中になって集中する姿も見られました。

最後に、仕上がった作品を手記念撮影をして親子行事を終えました。

また、二月十日には、同小学校二年生一〇四名を対象とした木工クラフト作りを行いました。子どもたちは、輪切りにした木の台に、当署であらかじめ用意したキットを使ってクマの置物を作りましたが、そのまわりをドンクワリなどの木の実で思い思いに飾り付けるなど、個性豊かな作品に仕上げていました。

四万十マイバッグ

運動に「役

〈ふれあいセンター〉

二月一日から、四万十市内の大型量販店など四店で、レジ袋の有料化がスタートしました。

「四万十マイバッグ運動開始式典」が行われた一日、サニーマート四万十店では、関連行事として木工教室が開かれ、ふれあいセンター職員らが指導に当たりました。



親子が木工クラフトを体験

当日は、開店と同時にマイバッグ持参の家族連れで大賑わい。木工教室も好評で、四十組約一〇〇名の親子が、端材を活用した木工クラフトを体験しました。そして、仲良く動物の携帯ストラップや立体作品、おひな様を完成させ、大事そうに持ち帰っていました。

環境保全活動としてのマイバッグ運動の推進に、再生可能な資源である木材、環境材料としての木材が一役買う木工教室となりました。

地域の人に

感謝を込めて

「愛媛県松野南小で木工教室」

〈ふれあいセンター〉

二月三日、愛媛県松野町立松野南小学校全校児童十二名を対象に木工教室を開催しました。

この日は、二月末に同校で開かれる「ありがとう集会」(感謝祭)でこの一年間お世話になった地域の方々にプレゼントする動物の置物や携帯ストラップなどの作り方を指導しました。



木工教室の様子



児童たちは昨年十一月に作品作りを体験していること、今回はパーツをある程度作成して学校に持って行ったこともあり、スムーズに作っていました。上級生が下級生を教えたり、手伝ったりして約一時間で目標の六〇個が完成しました。今回の木工教室は、木材への関心を高めることは勿論、子ども達の連帯意識を高める良い機会になったのではと考えています。

シイタケ早く

出てこないかな?

〈ふれあいセンター〉

二月五日、大月町立弘見小学校三〜五年生七十一名を対象に山の学習としてシイタケ栽培体験を指導しました。

子ども達には、「きのこ」は好き・嫌い?の質問から始まり、菌の種類、きのこの迷信についての〇×クイズ、そしてみんなで「きのこの唄」を歌っておおいに盛り上がったところで駒打ち作業に入りました。



駒打ち作業を体験

子ども達は、準備したほど木に手際よく駒を穴の中に入れて槌で打ち込んでいき、アツという間に完了です。長さ三〇センチ位のほた木はそれぞれが家に持ち帰り、シイタケが生えるまで観察し、一メートルのほど木は学校で観察することになります。昨年実施した現六年生の四名からシイタケが出ていた報告を聞いており、可愛いシイタケが顔を出すまでは少し日数がかかりますが「森からの贈り物」を楽しみに待つことでしょう。

